

赤十字奉仕団だより



赤十字の基本原則

第46号

人道、公平、中立、独立、奉仕、単一、世界性



写真 〔左上〕 二次避難所での炊き出し（無縁奉仕団） 〔右上〕 津幡中学校 JRC と炊き出し（津幡町奉仕団）
〔中央〕 珠洲市救護所でのお仕事体験イベントの物資輸送、着ぐるみ（安全法奉仕団員、防災ボランティア）
〔左下〕 義援金の街頭募金（能美市奉仕団） 〔右下〕 救援物資搬送（安全法奉仕団）

令和6年能登半島地震での活動

赤十字防災ボランティアリーダー 北村 裕一

発災直後から支部に駆けつけ、日赤職員と一緒に活動を開始しました。3日までは赤十字災害救援物資の搬送を行い、それ以降は現地のボランティアセンタースタッフとして被災地で活動を開始しました。

ある避難所で防災セミナーの受講者に「災害前に避難所の課題（トイレに関する話）を聞いてよかった。」と話しかけられました。でも、そのような方は住民のほんの一部です。この災害では、今後セミナーで話すならこれも伝えよう、と気づくことがたくさんある。赤十字のネットワークで伝える機会があるなら、より多くの人にその気づきを伝えたいと思いました。

まだまだ復旧復興に向けて動き出したばかり、これからも被災者の気持ちに寄り添って『被災者ファースト』で活動していきたい。



救援物資運搬を行って

赤十字安全法奉仕団 池田 陽一

私の初めての活動は令和6年1月5日、七尾市にある能登総合病院への救援物資運搬でした。救援物資は、支部職員の方々が前日までに積み込んであり、私たちボランティアが直ちに出發できる準備がとられていました。これは一刻も早く届けたいとの使命感の現れだと感じました。

当日の担当2名とも今回が初めてとの事で、支部集合9時、道路状況・通行ルート・緊急資材の配備先などの情報を共有し出發しました。

こんな大規模地震の被災地への救援物資運搬は初めての事で活動を申し込んでから、家族ともども「余震は?」「道路状況は?」と不安で心配でしたが、この出發前の情報共有で安心し肝が座った感じで活動する事ができました。

災害時のボランティアでは何が起こるか分かりません、事前情報と準備を備え、被災した方々に一日も早い日常が戻りますよう活動が続けていきたいと考えています。



被災地への支援活動を行って

能美市赤十字奉仕団チーム20 田中 策次郎

1月1日の発災時はメールで奉仕団員に、ご近所の高齢者の方々への安否確認を依頼し、各自で地域の高齢者宅の声掛けに回りました。2日に志賀町富来地区の避難所から支援要請があり、奉仕団員に協力依頼し、水100箱と簡易トイレ500個・食品等を買集め、3日には富来地区避難所まで運搬しました。4日には能登島避難所の依頼で奉仕団員が空きペットボトルに詰めたトイレ用の水道水100本と敷物を運搬しました。

道路寸断の為、奥能登での被災地活動が出来ず、地元スーパー前で6日と14日に奉仕団員25名で義援金活動を行い合計126万円の寄付を集め日赤石川県支部にお届けしました。16日には珠洲市消防から断水の為に下着に困っているとの話を聞き、珠洲消防署と珠洲市内の避難所10ヶ所を回り、下着・マットレス・お菓子等を運搬しました。1月末からは能美市への2次避難所と広域避難所で、週4回茶話会のお手伝いを行いました。3月現在も、避難所からの変わる要望に対応し、毎週物資支援や炊き出しを続けています。



二次避難所の運営補助を行って

鶴来ふれあい赤十字奉仕団 西田 恵子

能登地震で被災され、白山市へ避難された方々へ少しでも力になればと、ボランティア活動を行いました。避難所となった松任総合運動体育館での活動は、入浴バス添乗や体育館の除菌、清掃、ごみ回収、物資の補充、お弁当の配布など様々な役割を担いました。被災者の方々が少しでも安心して過ごせるよう努めました。

被災地まで直接行くことができなかったものの、地域での支援活動に参加できたことを誇りに思います。被災者の方々と過ごした時間は貴重であり、その経験から多くの学びを得ることができました。今後も被災地の支援に向けて、積極的にかかわっていきたいと考えています。



2次避難所で炊き出し活動を行って

無線赤十字奉仕団 澤田 英一

今回の地震において石川県無線奉仕団では、被災地への支援物資搬送の補助のほかに金沢市内の2次避難所で、お昼ご飯の炊き出し活動を実施いたしました。

限られた時間と制約の中で、一度に多くの量を作って提供するという慣れない作業ではありましたが、野菜たっぷりのメニューは避難されている皆さんに喜んでいただきました。2度目の炊き出しでは、メンバーによるギター演奏も行いました。

住むところを一瞬で奪われ先の見えない不便な生活を強いられている方々に寄り添いながら、我々が今できることを模索しながら微力ではありますが引き続き支援させていただきたいと思っています。



避難所の方々への減塩野菜料理の提供を行って

内灘町赤十字奉仕団 清水 由縁

1月1日に発生した令和6年能登半島地震において避難所生活を余儀なくされた町民の方々へ、減塩野菜料理の提供のお手伝いをしました。

1月29日から2月22日までの間で計5回、内灘町赤十字奉仕団からは5～6名参加しました。

避難所生活の長期化で野菜を摂取する機会が減っていると考え、地元農家さんから譲り受けた葉物野菜やダイコン、ニンジンを使い、ダイコンの千枚漬けと小松菜のお浸し、ダイコン菜とじゃこのふりかけ、コールスローサラダなど毎回メニューを変え、1日2品、100食程度のおかずを、避難所の方々の健康を少しでも維持していただけるよう、各々こころを込めて調理しました。



輪島市での炊き出し活動を行って

金沢星稜大学学生赤十字奉仕団 岩木 千夏・鎌谷 奈緒・山本 美紀

今回輪島市での炊き出し活動に参加させていただき、実際に被害の状況を目にし、また被災した方のお話を聞くことが出来ました。テレビで、地震の被害を見るのとは違い、実際に行ってみると、被災地に行くまでの道が大きな被害を受けており、倒壊してしまっている家は、あの時点で時間が止まっており、何も言葉が出てきませんでした。

普段何気なく過ごしている自分たちの生活がどれだけ幸せなものであるかを実感しました。

炊き出した際には、現地の方が、心からありがとうございますと仰ってください、微力ではありますが、少しは力になれたのかなと思います。復興には時間がかかると思うが根気強く私にも何かできることをして行きたいと思いました。また、今回参加して普段は関わる事ない方と色々なお話もでき、貴重な経験となりました。



穴水町で被災した子どもたちへドーナツを配る活動を行って

金沢星稜大学学生赤十字奉仕団 大久保 百茄・大家 野瑚・藤沢 美菜子

自分が元気を与えるつもりが、逆に元気をもらってしまうほど、子供たちの元気な挨拶に心が染みました。給食は未だに缶詰など、通常の生活が戻っているとはいえない状況でも笑顔で「おいしい」とドーナツを頬張っている姿を見て、美味しいものを食べたい時に食べることのできる、そんな当たり前であるはずの日々を取り戻したいと強く思いました。小中高校へ訪問して生徒の元気いっぱいな姿、勉強を頑張っている姿を見て少しずつ前を向いて歩き始めているのだなと思い私も支援や日々の生活を頑張っていこうと励まされました。被災者を応援するのではなく、私たちも被災した方々と共に頑張っていきたいという意志が強まり、魅力溢れる能登地域の早い復興のために出来る限りの支援活動を行っていきたいです。



あとがき

この度の災害により、被災された皆様並びにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。赤十字奉仕団も被災地の少しでも早い復旧復興を願い、活動を続けてまいりたいと思います。

編集委員 寺本、村中、田中、小林、吉本

※日赤石川県支部のホームページからも奉仕団だよりを閲覧することができます。

